

【水の里の旅コンテスト2016 応募企画】

【一般部門】

湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部

笑湖ツアー 命の水を巡る旅 in びわ湖高島


森に生かされ水に寄りそう里山今昔物語

観光地域：滋賀県高島市

【日程】	2泊3日		
【実施時期】	通年		
【催行人員】	25名（最少催行人員：15名）	【お勧めする旅行者層】	学生 一般
【旅行代金】	41,314円（1人1室利用） 39,814円（2人1室利用） 38,814円（3人1室利用） （大人1名）	【内 訳】	
		<p>1日目 交通費バス 4,000円 新竹取物語体験料金・昼食 2,300円 畑棚田民宿泊+夕食・朝食 6,300円 交流館使用料 200円/1人 ボランティア交通費 200円/1人 保険 50円/1人</p> <p>2日目 交通費バス 4,000円 昼食 1,550円 バター作り 520円 興聖寺入山料 300円/1人 グリーンパーク想いで森泊 8,500円（1人1室利用）+夕・朝食 4,320円 ボランティア交通費 200円/1人 てんくう温泉入浴 無料 保険 50円/1人</p> <p>3日目 交通費バス 4,000円 昼食 3,024円 かばた見学 1,000円 ボランティア交通費 200円/1人 事務経費（切手・チラシ等） 550円/1人 保険 50円/1人 （バス代は、予定 概算）</p>	
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
<p>琵琶湖は、400万の歴史があり、自然環境・近畿1,400万人の水道水、洪水を防ぐなど人々の共有財産である。笑湖ツアーと名づけ、水源地域の人と来訪者が共に琵琶湖の環境について考え、楽しむツアーです。森林と平野、琵琶湖が川で結ばれている高島市は、森に生かされ、水に寄りそう文化を形成しつつ、自然と共存する生活様式が定着しています。暮らしそのものを観光資源とし、自然や歴史・生活・文化を五感で楽しんでいただきます。</p> <p>水と暮らしの文化：高島市では、自噴する湧水を「カバタ」と呼ばれる特徴的な洗い場（台所）を使って、飲み水用、炊事用に使い分け、最後に鯉を飼って残飯を処理させるという、謙虚で豊かな水利用の知恵を見ることができます。さらに、琵琶湖の西岸の集落では、琵琶湖の風波から集落を守るために築かれた石垣や、琵琶湖の中に設置された橋板で洗いや物をする姿が見られ、街道沿いに残る建造物群とともに、この地域独自の景観を生み出しています。大溝の水辺景観は、古式水道や水路が特徴的です。内湖の乙女ヶ池は、「水城」であった大溝城の往時を今に伝えています。水は、美しい水辺の景観で人々を癒すだけでなく、優れた芸術を生み出す材料にもなりました。</p> <p>国の名勝：旧秀隣寺庭園は、武家書院の蓬萊池泉式庭園です。また、池の沢庭園遺跡は、12世紀末期から13世紀前半の庭園遺構で、窪みや山裾から出る水を集めて、池泉や流れを作り、岩盤の高まりを取り込んで、築山や中島をつくるなど自然の地形を巧みに利用して造られています。このころ朽木は、多く和歌に詠まれ、風光明媚な溪谷の景勝地として、都の人々のあこがれの地になってきました。</p> <p>水と祈りの文化：人々は、水の恵みに感謝の念を抱き、水の清らかさに精気が宿ると信じ、洪水や日照りを恐れ、水を神とうやまい祭事を行ってきました。高島市では、材木を安曇川に流し京都に運んだ筏乗り達を川の魔物から守るシコブチ神社が川沿いに点々と建てられています。白鬚神社は、近江最古の神社です。湖中に建つ大鳥居は、その姿から「近江の巖島」と呼ばれ、琵琶湖の航海を司っています。参拝者も多く絶景ポイントです。与謝野鉄幹・晶子夫妻が参拝したときに「しらひげの 神のみまへにわくいづみ これをむすべば ひとの清まる」と詠んだ。</p> <p>竹林整備体験をエコツアープログラム化した新竹取物語は、観光協会や宿泊施設と連携し、教育旅行や企業研修にと御利用くださり、リピーターも多いです。日本陽明学の祖中江藤樹先生のゆかりの施設：藤樹書院・良知館・三尺の泉を訪ねます。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<p>管理栄養士（厚生省）・NACS-J 自然観察指導者・「青少年体験活動総合プラン」の自然体験活動指導者（全体指導者・文部科学省委託事業）・高島トレイル認定ガイド・エコツーリズム指導者（滋賀県）環境保全活動指導者・環境学習指導者（滋賀県）など有資格者あり。事前に危険個所のチェックやコースの下見・準備をする。</p>		<p>自然や歴史・生活・文化を五感で楽しんでいただき、自然の魅力・奥深さを楽しみ、より深く感動していただきます。地元食材を使った郷土料理実習もあります。上流に住む人は、下流に住み人のために水を汚さず、水に感謝しながら日々営みを続けています。ツアーで、水と生きる、和の暮らし、祈りの姿を体験していただきます。</p>	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① 湖西観光（株）	バス	⑧高島町畑地区・畑民宿	棚田・民宿泊・郷土料理
②（公社）びわ湖高島観光協会	琵琶湖周航の歌資料館	⑨グリーンパーク思う出の森	宿泊・くつき温泉てんくう・食事
③ 針江生水の郷委員会	針江・霜降景観めぐり	⑩宝牧場・宝亭	牧場見学・昼食・バター作り体験
④ 湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部	企画・ガイド[全般]新竹取物語	⑪藤樹書院ボランティア	藤樹書院・三尺の泉
⑤ 中江藤樹記念館	説明	⑫高島歴史民俗資料館	説明
⑥ 興聖寺	興聖寺と旧秀隣寺庭園の説明	⑬道の駅藤樹の里あどがわ	特産品販売
⑦ 道の駅くつき新本陣	特産品販売	⑭西友	うなぎ・川魚料理

【特記事項】	
【催行実績】	無し

【 行 程 表 】	
1 日 目	9:30JR 高島駅=9:40^10:00 白鬚神社=10:10^11:00 大溝城・乙女ヶ池=11:15^14:00 (新旭地区) 新竹取物語(竹林整備：竹伐り・竹細工「手作り食器・箸」・笑湖カレーライスと高島名物“とんちゃん焼きと山菜てんぷら”竹釜飯の竹釜割り体験)。自家製つけもの・自生したカブトムシの観察(1年中観察)=14:15^14:25 藤樹神社=14:30^15:00 中江藤樹記念館=藤樹書院・良知館・三尺の泉=(高島地区) 畑の棚田・農家民宿グループ(泊)
2 日 目	朝食後 9:00 発=9:30^10:00(高島地区) 鴨稻荷山古墳=10:10^10:40 高島歴史民俗資料館=10:50^11:25(安曇川地区) 田中古墳群(彦主人王御陵と36号墳)=12:00^13:00(朽木地区) 宝牧場の焼肉宝亭昼食 13:00^14:00 宝牧場見学・バター作り体験=14:20^14:45 朽木村井 国の名勝 池の沢庭園=14:55^15:45 興聖寺・国の名勝 旧秀隣寺庭園=15:50^16:10 シコブチ信仰:朽木岩瀬志子淵(シコブチ)神社=16:15^16:45 道の駅くつき新本陣=17:10(泊) グリーンパーク 思い出の森 くつき温泉てんくう
3 日 目	朝食後 9:00 発=9:30^10:00 (今津地区) 琵琶湖周航の歌資料館[見学と琵琶湖周航の歌合唱]=10:20^10:50 (マキノ地区) 暁霧・海津大崎の岩礁(琵琶湖国定公園・琵琶湖八景)・大崎寺(安土の地天井)(社・寺の湖国百選)=11:00^11:55 重要文化的空間 海津・西浜・知内の水辺景観・海津の町並散策=12:10^13:00(今津地区) 川魚専門店 西友 「ひつまむし膳(ひつまむし・他三品付)」=13:10^13:40 (新旭地区) 川島酒造見学・地酒の試飲=13:50^15:20 針江・霜降の水辺景観(針江カバタの見学)=15:40^16:10 (安曇川地区) 道の駅藤樹の里あどがわ=16:20 JR 安曇川駅

【 主な観光ポイント (観光地・観光箇所の歴史、由来など) 】		
【 ポイント1 】	【 ポイント2 】	【 ポイント3 】
 <p>乙女ヶ池</p>	 <p>地元宿泊施設と連携 教育旅行</p>	 <p>地元観光協会連携 新竹取物語 企業研修(東京から) 竹釜飯割体験</p>  <p>竹林整備 地元観光協会連携 新竹取物語 企業研修(東京から)</p>
<p>【コメント】</p> <p>大溝は琵琶湖北西岸で営まれる集落で、集落南部には湖砂州により琵琶湖と隔てられた内湖(ないこ)の乙女ヶ池(おとめがいけ)が広がる。大溝は、古代北陸道の三尾(みお)駅及び湖上交通の主要湊である勝野津(かつのつ)が比定される交通の要衝として機能してきた。戦国時代から江戸時代にかけて大溝城及び城下町が整えられ、乙女ヶ池と琵琶湖との間の砂州上に打下(うちおろし)集落が置かれた。</p> <p>明治初期の蒸気船就航、昭和初期の鉄道敷設など大溝を取り巻く交通事情は変化してきたが、旧街道沿いに列村(れつそん)形態を成す集落構造は現在も継承されている。</p> <p>大溝の旧城下町区域では、近世に遡る古式上水道が現在も利用されている。</p> <p>水源地と高低差がない勝野井戸組合では埋設した水道管で各戸に配水し、大溝西側の山麓に水源を持つ日吉山(ひよ</p>	<p>【コメント】</p> <p>新竹取物語(竹細工と川遊び)</p> <p>一級河川河原で石投げや水遊び・川魚つかみなど楽しむ。</p>	<p>【コメント】</p> <p>地場産業「扇骨」を支えてきた安曇川河畔林の竹林は、竹材を中国などからの輸入のため荒廃。2007年から整備、体験会場にしている。</p> <p>昆虫・山野草・小鳥などが増え自然再生について学習できる場に価値が向上。</p> <p>竹林再生整備体験をエコツアープログラム化した新竹取物語は、地区内外を問わず子供から高齢者まで参加。</p> <p>リピーターも多い。教育旅行・企業研修も受けている。</p>

しやま)水道組合では、分水のためにタチアガリと呼ばれる施設を設けている。

他方で、打下集落では琵琶湖側に高波・浸水防止のための石垣を築いた。水草が繁茂する乙女ヶ池には水田地先の個人所有地と水草の刈取りを入札で決めた共有地があり、琵琶湖内湖の共同利用の在り方がわかる。

このように、大溝の水辺景観は、中・近世に遡る大溝城及びその城下町の空間構造を現在も継承する景観地で、琵琶湖及び内湖の水又は山麓の湧水を巧みに用いて生活・生業を営むことによって形成された文化的景観である。

【ポイント4】



藤樹書院

【コメント】

近江聖人といわれた日本陽明（ようめい）学の祖、中江藤樹（なかえとうじゅ）（1608-1648）の住居跡・講堂跡で、国の史跡に指定されています。

この建物は、藤樹の自宅が狭くなったために彼が没する半年前の正保5年（1648年）に、門弟や村人たちの協力によって完成したものです。明治時代に、現在のように再建されています。内部には、藤樹直筆の「致良知（ちりょうち）」の書を始め、遺品・遺物が数多く展示されています。また、敷地内には名前の由来にもなった藤樹遺愛の藤の老木があります。

中江藤樹は、生涯を通して師につくことがなく、ひたすら独学で、一貫して人間の道を探求し続けました。37歳で陽明学に出会い、致良知に徹すれば心事一元になることを悟り日本陽明学の始祖といわれました。彼の学統には、熊沢蕃山（くまざわばんざん）、澗岡山等（まのがし）がいます。また、大塩平八郎（おおしおへいはちろう）、吉田松陰（よしだしょういん）など異才もいます。武士が人の上にあって世を支配した江戸時代に、人間として生きるべき真実の道を探求して実践したのが近江聖人中江藤樹先生です。

すべてを包み込む大きな心。人間への深い愛と畏敬。藤樹先生が熱い思いを込めて人々に語りかけてきた藤樹書院には今もその心が息づいています。藤樹書院の掘抜井戸が、ちょっとした修理でコンコンとした清泉が湧くようになった。

「三尺の泉」と呼ぶことになって標石を立てた。これは、熊沢蕃山の「集義和書」に、「心友」問う、昔より名を得たる博学の儒ありといえども、道を興すに足らず、藤樹先生は、博学の聞こえなけれども、聖学興起の端を開けるは何ぞや」答えて曰く、「万里の海は一夫に飲ましむる事あたはず、三尺の泉は、三軍の渴をやむるに足れるといへるものなり」とあることにちなんだもの。

【ポイント5】



畑の棚田

【コメント】

畑の棚田：農林水産省（日本の棚田百選）
棚田は、生態系の維持に大きな役割を果たし、維持保全への取組とともに 景観的にも日本の原風景である。今日も棚田のオーナー制度などで都会との交流事業が行われるなど積極的に棚田保全に努めている。

【ポイント6】



鴨稻荷山古墳

二上山（大阪・奈良の府県境）の白色

凝灰岩製の古式家形石棺が安置されていた



水運で運んだ

【コメント】

古代 鴨稻荷山古墳

この古墳は、二上山（大阪・奈良の府県境）の白色凝灰岩製の古式家形石棺が安置されていた。石棺は、水運で運んだと推定されている。

【ポイント7】



高島歴史民俗資料館

【ポイント8】



田中古墳群（彦主人王御陵：王塚と36号墳）
（継体天皇は淀川水系の天皇）

【ポイント9】



朽木村井 国の名勝 池の沢庭園

【コメント】

滋賀県指定史跡である鴨稻荷山古墳の近くに昭和56年10月に開館しました。テレビなどの報道で一躍有名になった鴨遺跡の発掘の木製遺物（木簡、木沓）や市内の考古、民俗、歴史資料が展示されています。特に、鴨稻荷山古墳出土の復元宝冠と飾履は圧巻です。また、貞観15年（873）と記された農業日誌的内容の木簡は全国の注目を集めました。高級陶器や銅製印「朝」の出土は国家的祭礼が行われていたのではないかと思わせます。民具クラブによる民具の収集も膨大なものであります。

【コメント】

檜並木の参道の奥にある通称“王塚”の中にあります。面積は約2,840平方メートル。2段重ねの円墳で、周囲の3基の古墳より格段に規模が大きく、古墳時代中期のものと考えられています。被葬者は、継体（けいたい）天皇の父である彦主人王と伝えられています。安曇川町は、継体天皇にまつわる伝承地が多いことでも知られています。

現時点での所見

田中古墳群は、宮内庁陵墓参考地である田中王塚古墳の周辺に営まれた小型の方墳および円墳を中心とする古墳群で、主に5世紀後葉から6世紀前葉頃に造られたと考えられてきました。

今回の36号墳発掘調査によって田中古墳群において初めて埋葬施設の状況が明らかにすることができました。確認された横穴式石室は、遺骸を安置する空間を玄室の奥に設けるなど類例が確認されない特異な構造でした。

36号墳築造時期は、出土土器から6世紀後半と考えられます。豊富な副葬品から、この時期の首長墓のひとつと推測されます。

周囲には、継体天皇関連の伝承や史跡が多く存在し、その立地からも高島平野南部一帯を治めた三尾氏族の首長墓と推定されます。彦主人・継体父子を支えた三尾氏が継体朝以後もこの地において勢力を掌握していたことを示しています。

その意味では、36号墳の発見は、田中古墳群に対する認識を大きく変え、今後の調査・研究によって、三尾氏と継体天皇について重要な手がかりを提供してくれる可能性のある古墳と考えます。今回の調査結果は、謎の多い継体天皇に関する研究を進める上でも、当該地の地域史を考える上でもきわめて貴重な新資料と考えます。

【コメント】

朽木村井 国の名勝 池の沢庭園（平安時代後期から鎌倉時代前期）

同時期に、都の郊外で営まれた庭園遺構の事例は極めて少なく日本庭園史上の空白期を埋める貴重な遺構である。

国の名勝池の沢庭園眼下に流れる安曇川から20mもの断崖上に古い庭園の遺構が残っています。この地には、「池の沢屋敷跡」という、後一条天皇（在1016～36）や朽木氏にからむ貴人の隠棲伝説が残されています。調査の結果、地表面で観察された窪地は南北に長く、弓状に緩く曲がった丁線を持つ三角形に近い形の、人為的な池の遺構であることが明らかになりました。

池の規模は、南北約80m、東西幅は、南端で約7m、中央部で約23m、北側が最大幅で約32mという大規模なものです。池の中央北寄りに、東西3m、南北6mほどの中島がみられ、島の南端には景石（けいせき）が据えられています。

また、池の西岸南部から、直径10～20cmの河原石を敷いた州浜状（すはまじょう）の汀線（ていせん）や景石（けいせき）が見つかりました。この庭の造られた年代は、石敷きの間から13世紀前半の中国産青磁の破片が見つかったことから、鎌倉時代の作と考えることができる。高島七頭の祖佐々木信綱が朽木地頭職に任ぜられたのが承久の乱（1221）の功によるとされていますので、この庭は、佐々木氏が朽木谷に勢力を及ぼし始めて間もない頃に造られたとすることができます。

いずれにしても、この遺構は、高島市七頭に関する最も古い遺構の一つであるばかりでなく、全国的に見ても事例の稀な鎌倉期の庭園として貴重です。

【ポイント10】

興聖寺・ 国の名勝旧秀隣寺庭園



興聖寺・ 国の名勝旧秀隣寺庭園 実測図

【ポイント11】

日本遺産「シブチ信仰」朽木岩瀬 志子淵神社



【ポイント12】

道の駅くつき新本陣（お土産購入）

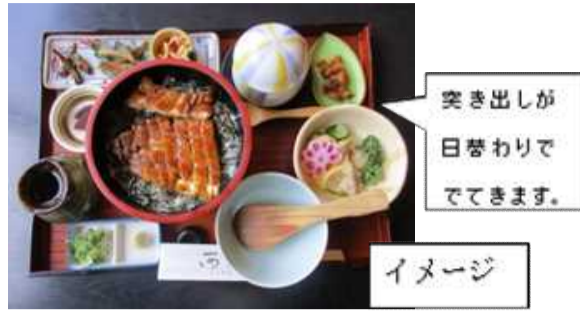


<p>【コメント】</p> <p>興聖寺（こうしょうじ）朽木岩瀬</p> <p>関西花の寺二十五霊場 14 番。樹齢 470 年以上のヤブツバキ</p> <p>曹洞宗高巖山興聖寺：近江守護佐々木信綱が曹洞宗開祖の道元禅師に謁し、承久の乱で戦死の一族の供養を願いし、朽木の里に拝請。</p> <p>この時禅師は、付近の山野に風景が伏見深草の興聖寺に似て絶景だと喜ばれ一寺の創建を勧められ、山号を高巖山興聖寺とするように勧奨されました。（元は安曇川の対岸にありましたが、江戸時代の大火に遭い、朽木氏ゆかりの秀隣寺のあった現在地に移りました。）</p> <p>岩神館：享禄元年（1528 年）の秋、室町幕府 12 代将軍足利義晴が京都の反乱を避け、朽木種綱（たねつな）を頼りこの地に身を寄せます。この時、種綱が将軍のために造営したのが岩神館（いわがみやかた）で管内に造られたのが、現在残る庭園です。</p> <p>正しくは、岩神館庭園と呼ぶべきかも知れません。館の遺構は、かなり改変を受けていますが、いまなお、寺院墓地の背後に巨大な土塁と濠に囲まれた堂々とした区画を見ることができ、その規模、構造は、南北約 120m、東西約 90m の方形館と考えられます。将軍義晴はこの地に三年滞在し、13 代将軍義輝もまたこの地に身を寄せています</p> <p>秀隣寺：朽木宣綱（のぶつな）が、慶長 11 年（1606）に正室の菩提を弔うため、かつて岩神館にあった地に建立した寺院です。</p> <p>国の名勝旧秀隣寺庭園：安曇川の清流と比良山系を借景とした静かな佇まい。岩神館の庭園を作庭したのは、当時の政治的な実力者であり、かつ風流人としても名高い管領細川高国と伝えられています。</p>	<p>【コメント】</p> <p>シコブチ信仰：安曇川流域固有の信仰神です。「七シコブチ」は、京都府と滋賀県を流れる安曇川流域固有の信仰神である「シコブチ神」を祀る主要な 7 社の総称。7 社には、いずれもガワタロウ（河童）伝説が残る。</p>	<p>【コメント】</p> <p>くつき新本陣は、旧領主・朽木氏の陣屋機能を現代風に復元し、1987 年に誕生しました。1993 年、「道の駅」に指定され、毎週日曜・祝日に開かれる朝市が人気で、多くの観光客で賑わっています。</p>
<p>【ポイント 13】</p>	<p>【ポイント 14】</p>	<p>【ポイント 15】</p>
	<p>今津町 琵琶湖周航の歌資料館見学と琵琶湖周航の歌を練習・合唱</p>  <p>今津港にある琵琶湖周航の歌の歌碑</p>	
<p>【コメント】</p> <p>(泊) グリーンパーク思い出の森</p> <p>夕食 くつき温泉てんくう</p> <p>特産品販売</p> <p>ホテルタイプ宿泊 8,500 円／1 人</p> <p>大人 夕食・朝食 4,000 円＋税/1 人</p> <p>大自然と触れ合える広大な森の中で宿泊、温泉、アウトドアが楽しめる施設。そよ風が奏でるハーモニ、森の香り、四季が織りなす景色の中、露天風呂に入って、自然のパノラマを前にのんびりリフレッシュ♪</p>	<p>【コメント】</p> <p>「♪われは湖の子・・・♪」で知られる琵琶湖周航の歌。この歌は大正 6 年の初夏の夕べ、旧制第三高等学校（現在の京都大学）ボート部に所属していた小口太郎が琵琶湖周航 2 日目の今津の宿でクルーにこの詞を披露し、仲間が当時学生の間で歌われていた「ひつじぐさ」の曲にのせて歌ったのが始まりです。</p> <p>多感な青春と周航のロマンを情緒豊かに歌い上げるこの歌は、多くの歌手や演奏家などにより、広く国民に親しまれています。</p>	<p>【コメント】</p> <p>海津大崎の岩礁</p> <p>海津大崎の桜並木 日本のさくら名所百選</p> <p>保全活動：桜守の会（京阪神の方も参加）</p> <p>大崎寺（安土の血天井） 社・寺の湖国百選</p> <p>近江西国第九番札所 大崎観音の名前で知られている。</p>

【ポイント16】



【ポイント17】



ひつまむし膳
 (前菜 酢のものまたはサラダ ひつまむし 茶碗蒸し)
 一人桶 3024 円(税込)
 (季節により写真と内容が異なる場合があります)

【ポイント18】

川島酒造見学・地酒試飲



【コメント】

重要文化的景観
海津・西浜・知内の水辺景観
海津の街並み散策

滋賀県で2番目の重要文化的景観に選定された「海津・西浜・知内の水辺景観」は、高島市マキノ町海津・西浜・知内の湖岸一帯および知内川と琵琶湖を含む約1,842ヘクタールです。

選定地域には、琵琶湖をはじめとする河川や内湖のほか、湖岸の石積みや共同井戸、知内川で続けられている伝統的なヤナ漁など、多様な水文化が現在も存在しています。

自然的には、多雪地域であるとともに琵琶湖の幅の最も広い部分に位置することから、季節風による風や波の影響を強く受け、このことが家屋に風除けとなる垣や板戸を用い、湖岸には石積みが築かれるなどの独特の生活景観を形成していることがあげられます。

また、湖辺や内湖(沼)では全国でも珍しい植物や湿地性の稀少植物を見ることができます。さらに、知内川は県内有数のアユおよびビワマスの遡上河川で、これらの魚を漁獲するためヤナ漁をはじめとする独特の漁法が発達していることも注目されます。

歴史的には、日本海から琵琶湖を経て京都・大阪に向かう湖上・陸上交通網の結節点として古くから多くの人や荷物が行き交い、とくに江戸時代は西近江路(北国街道)の宿場・港町として繁栄した地域といえます。

一方でアユ漁を中心とした漁業の拠点としても発展し、それに伴い、伝統的漁法や水産物の加工業が発達し、現在にいたっています。また、近代には石灰産業や蒸気船の港としても発展しました。

海津・西浜の石積み

海津・西浜の湖岸に約1.2キロにわたって続く、高さ2.5メートル前後の石積みは、西浜村の記録によると、元禄15年(1702)にたびたび大波があり家屋や街道が被害をうけたことをきっかけに、代官西与一左衛門の尽力によって築造されたといえます。

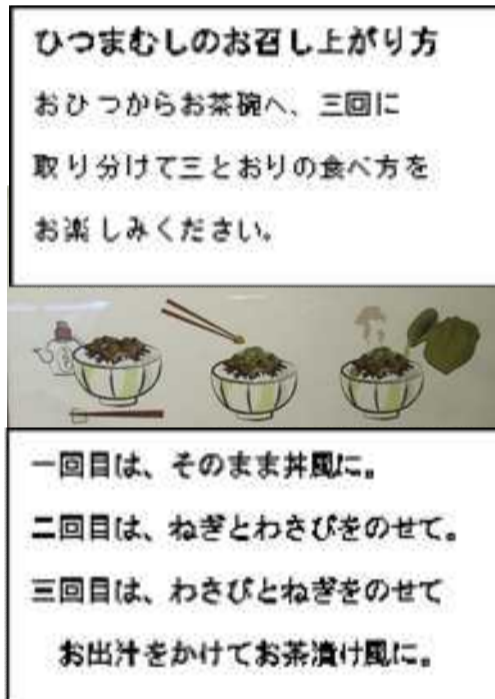
また、別の記録によると、海津の石積みはこのころにはすでに築かれていたとされ、江戸時代中期には、ほぼ現在に残る海津・西浜の石積みの景観が完成していたものと思われます。

石材は、母岩から割りとった比較的大型の石を部分的に成形して使われており、種類は大部分が花崗岩、一部に流紋岩系、石灰岩などが見られます。加工技術は古い時代のもので新しいものが混在しており、この石積みは波風除けという性格上からも、たびたび改修されてきたことがうかがわれます。

重要文化的景観「海津・西浜・知内の水辺景観」では、その景観を構成する重要な要素として、この海津・西浜の石積みのほか、海津漁業協同組合旧倉庫、知内川漁業者組合旧倉庫のほか、江戸時代に建造された町家5軒を定めています。

【コメント】

近江今津の**西友**(にしとも)。滋賀県にあるうなぎ・川魚料理の店。永年受け継がれてきたタレを使い、炭火でじっくり焼き上げたうなぎ蒲焼や、佃煮・そうざい等を取り扱っております。



【コメント】

当蔵は、古都京都の北、日本最大の淡水湖・琵琶湖の西岸地方で、安曇川沿いに広がる穀倉地帯にあります。古くから良質米の産地として広く知られており、背後には雄大な比良山系の山々が連なります。雪に覆われた長く厳しい冬、花々の咲き乱れる喜びの春、やがて里は鮮やかな緑に囲まれ、黄金色の稲穂が波打つ実りの秋へと続いていきます。

美しい四季の移ろいに秘められた大自然のエネルギーと、比良の渓谷に磨き抜かれた清冽な伏流水が、銘酒“松の花”に命を与え、豊饒の味を育てて参りました。

また、当地は古来より“生水の里”と呼ばれ、伝統的な“川端文化”が今も息づく里としてNHKをはじめ、多くのマスコミで紹介されてきました。活きた水が創り出す、詩情溢れる生活文化を一目見ようと、全国各地より当地を訪れる観光客は後を絶ちません。

【ポイント19】	【ポイント20】	【ポイント21】
<p>重要文化的景観 高島市針江・霜降の水辺景観め</p> <p>針江 かばたの見学と街並み 1,000円/1人</p> 	<p>かばた</p> 	<p>道の駅藤樹の里あどがわ</p> 
<p>【コメント】</p> <p>市内で2か所目の重要文化的景観に選定された「高島市針江・霜降の水辺景観」は、高島市新旭町針江の湖岸沿いに残るヨシ群落一帯と、琵琶湖水域を含めた区域ならびに針江・霜降集落、そしてその2つを結ぶ針江大川と、その間に広がる水田地域一帯の、約295.9ヘクタールを選定範囲としています。</p>	<p>【コメント】</p> <p>◆湧水を活用した「カバタ」の景観</p> <p>本地域では安曇川の伏流水と比良山系から流れ着く地下水を期限とする湧水が各所から自噴しており、これを飲料水・生活水として利用するために、カバタと呼ばれる洗い場・水場が残され、現在も暮らしの中で使い続けられています。</p> <p>一般的に、カバタでは湧水が元池(もといけ…飲料水用)→壺池(つぼいけ…洗いの用)→端池(はたいけ…ここで飼われている魚が残飯などを食べて水を浄化)の順に3つの槽を流れていき、最終的に水路へと流れ出るしくみになっています。</p> <p>絶えることなく湧き続ける水に対する思いと、近代技術を受け入れながらも「カバタ」を暮らしから分断することなく守り続けてきた地域の人々の生活文化によって、この地域独自の景観が生み出されてきました。</p>	<p>【コメント】</p> <p>県内最大面積・高島市の観光案内と特産品販売を中心に、地場産業の扇子づくりの体験づくりの体験工房なども備えて、多くの観光客の方にお楽しみいただける施設として営業しています。</p>